

# ドイツ・エルツ山地 の木の玩具 — 伝統の技を継ぐ工人達

2017年7月1日 朝日カルチャーセンター立川 岡部由紀子

## 木工玩具の産地となるまで

中世盛期、内陸交通の要衝に交易都市として成立したニュルンベルクは、15世紀には木工玩具の生産と取引の中心地となった。後にニュルンベルクの商人は、木材資源に恵まれた各地を競わせて、家内工業で製作された玩具を安価で仕入れ、新大陸を含む世界市場へと販路を拡大していく。彼らは、ドイツの木工玩具の普及に貢献したと共に、玩具生産地の命運を握っていた。

ドイツ東部とチェコとの国境に横たわるエルツ山地 (Erzgebirge) は、一番高い山が標高 1244m、もともと鬱蒼とした森林地帯だった。12世紀に銀鉱脈が発見され入植・開墾が始まり、後に銅、鉛、錫、鉄などの鉱石の採掘も盛んとなり、豊かな鉱山都市が複数誕生した。しかし、比較的安価な鉱物しか産出しなかった地域は、貧困に苦しんだ。標高 650-700m の丘陵地帯に位置するザイフェンとその周辺地域では、鉱山業だけで生計を立てることができず、鉱夫たちは周囲に豊富にあった木材を利用して、ほそぼそと木工ロクロで皿やボタンなどを作っていた。

18世紀中頃の錫鉱山の衰退と反比例するように、ロクロ細工の玩具製造が盛んになり、1800年頃転機が訪れた。ザイフェンで高度なロクロ技術「ライフンドレーエン」が考案され、木製の小さな人形や動物を量産することが可能となり、「ザイフェン製品」の名が次第に世界に知られるようになる。19世紀に近代市民層が台頭してくると一般家庭にもおもちゃが浸透し、ドールハウスや町や村の風景の模型、ノアの方舟などに用いられるミニチュア細工の需要が飛躍的に膨らんだことも追い風となった。

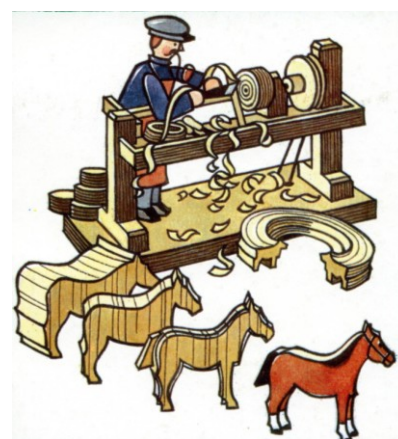
1852年にザイフェンに設立された「王立おもちゃ専門学校」は、工業化の波と国際的な価格競争の中で安価で低品質の製品作りへと流れる傾向に歯止めをかけた。20世紀に入ると、アルビン・ザイフェルトやマックス・シャンツなどの優秀な指導者が、伝統技法を復活して時代に即した新しい美術工芸の域に達する造形を次々と生みだし、優れた職人を育成した。クリスマスにちなんだモチーフの木工品も多く生まれ、現在のクリスマス用品へと繋がっている。

1949年から始まる東ドイツ時代の計画経済のもとで、玩具作りは国営工場での分業による大量生産へと舵を切ったが、そこでも優秀なデザイナーが魅力的な商品の開発にあたった。一方、国営化されなかった10名以下の小規模な工房は、伝統技法による丁寧なもの作りを守り続けた。1990年の東西ドイツの統一後は、西側資本の要望に悩みながらも、手作りの味わいを生かした木工品の産地として確固たる地位を占めている。



## ライフンドレーエン Reifendrehen

ライフェン(Reifen)は輪のことで、ドレーエン(drehen)はロクロを回転させることを意味する。木の輪の断面が動物などの形になるように削ることが画期的だった。削りだした輪を縦に割れば、一度にたくさんのミニチュア細工の原型ができあがる。量産が可能となった結果、一体ずつ彫って作っていた他のおもちゃ産地との価格競争に勝ち、木工玩具生産の中心地となる道が開けた。現在この技法を継承しているのはエルツ山地ザイフェンの5-8人ほどである。



エルツ山地玩具博物館刊行の冊子から

## ライフンドレーアー・クリスチアン・ヴェルナー Reifendreher Christian Werner

- ✧ 目の詰んだ節がないトウヒ材を入手するため、標高 1200m - 1400m の日当たりの悪い北斜面でゆっくと育ったドイツトウヒ (Fichte) を、2 月の新月の時に 40 - 50 本伐採し、梢を斜面の下に向けて寝かし樹液を抜く。
- ✧ ニヶ月後輪切りにして搬出、湿った地下室に保管する。乾燥してひびが入ると、轆轤で挽く時飛び散り危険。
- ✧ 樹皮を剥いだ、直径 30 - 40cm、長さ 20 - 40cm ほどの丸太をロクロ台に固定し、一分間に 600 回転の比較的ゆっくりとした速度で、きれいな円筒形を削り出す。
- ✧ 丸太の断面から 20cm ほど離れた丸太の側面に目安となる溝を彫り、先が丸くカーブしている長いノミのような刃物 (バイト) で、溝の周囲を凹凸をつけながら削る。
- ✧ 次に、丸太の断面を、縁に数cmの幅の輪を残すように彫り込む。鉋屑の長い帯が刃先から空中へと飛び出す。輪の表面には凹凸が刻みこまれる。
- ✧ 仕上げに、鉤形の細い刃がついた刃物で細かい溝を掘っていく。細かい鉋屑が飛び散る。輪を削り出すのは、工人の勘と想像力。使用する刃物の数は作るものにより異なる。長い柄がついた特殊な形の刃先を持ったバイトは販売されていない。刃物の鍛造は、父から習得した。
- ✧ 縁にできた輪を切り離すと、凹凸の溝がついた丸い木のリングができる。
- ✧ できあがったリングにナイフをあて金槌で叩くと、動物や人間の形をした断面が現れる。リングを放射状に割ると、60 個ほどのミニチュア細工の原型が取れる。
- ✧ その原型を湯に浸して柔らかくし、ナイフで角を取り細部を彫って形を整える。
- ✧ 耳や角、尻尾などの部分は、ライフンドレーエンの技法を用いて作ったリング (カエデ材) から切り分ける。
- ✧ 細かい部分を本体に糊付けする。
- ✧ 天然色素とシェラック (ラックカイガラムシの分泌物)、アルコールなどから作った顔料で色づけして完成する。

### 「美しいものを生み出したい」 クリスチアン・ヴェルナーの玩具作り

“Der Wunsch Schönes zu schaffen” Bayerischer Rundfunk バイエルン放送制作のドキュメンタリー 2011 年

- 1958 木工玩具のマイスター、ヴァルター・ヴェルナー (1931 - 2008) の長男としてザイフェンに生まれる。父の仕事場でトウヒの香りに包まれて遊んだ。ライフンドレーエンの工房で仕事にみとれる。
- 1972 プロテスタントの牧師が主宰する若者のグループ Junge Gemeinde のメンバーとなる。キャンプ活動や、チェコスロバキアやポーランドへの旅に参加。
- 1976 アルペンスキーの競技で重症を負う。兵役を免除され、国営工場で玩具製産に従事。単純な作業に抗議した結果、半ば監禁され玩具の入れ物となる曲げ木細工を何千と作らされる。
- 1977 野外博物館の水力ロクロ場で、92 才のマイスターからライフンドレーエンの手ほどきを受ける。
- 1980 若者のグループと一緒に活動したカタリーナと結婚、翌年長女コルネーリア誕生。
- 1983 ライフェンドレーエンの技術を習得し、野外博物館を訪れる観光客の前で実演する。
- 1985 創造的な仕事をするため、独立して自分の工房を構える。長男のアンドレアスが誕生。
- 1987 東ドイツの手工業者の団体旅行のメンバーに選ばれ、オーストリアを訪れる。
- 1989 政権に抗議する「月曜日のデモ」に家族で参加。何千人もの参加者を見て感動する。
- 1990 壁の崩壊により組合の統制から自由になったが、販路の開拓のため旧西ドイツを行脚。伝統技法を創造的に発展させたいという思いを貫き、現在はザイフェンを代表する工人として活躍。

## エルツ山地・ザイフェンから世界へ

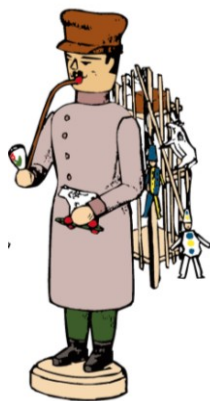
おもちゃ製造では後発地域だったエルツ山地、ザイフェンでは鉱山業の副業として木工玩具を作っていた。

18世紀半ばから木工業が盛んとなり、他地域発祥の玩具にオリジナリティーを加えて制作し、次第に市場での存在感を獲得する。くるみ割り人形、煙出し人形、動くおもちゃなど



ヒュヒトナー工房

くるみ割り人形「軽騎兵」



クラウス・メルテン工房

煙出し人形「おもちゃ売り」



ヴォルフガング・ヴェルナー工房

「ハンペルマン」



ヴォルフガング・ヴェルナー工房

オルゴール「ハト小屋」

ライフンドレーエンの発明によりミニチュア細工の量産が可能となり、19世紀半ばからは、花形の輸出品であったノアの方舟やジオラマ用のミニチュアの動物や人形の主要な供給地となった。



クリスチアン・ヴェルナー工房「ノアの方舟」



1850年発行の「玩具見本帳」から「農家と庭」のジオラマ

20世紀にはクリスマス飾りやデザイン製の高い木工品に、工場製産品も加わって玩具の産地としての地位を確立。

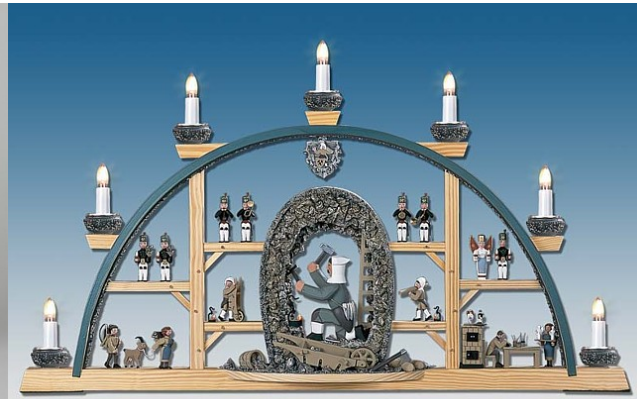


ライクセンリンク工房 「門付けをする聖歌隊の子ども」 「市場の花売り」



## 地域独特の鉱山文化を伝える木工品

鉱夫達の世界を映した木工品は、鉱山業が盛んだったころから現在まで、エルツ山地全体で好んで作られている。この地域独特のクリスマス飾りだったが、現在では各地のクリスマス市にも鉱夫のモチーフの木工品が並んでいる。



ヒュヒトナー工房「天使と鉱夫のロウソク立て」 クラウス・コルベ工房 「アーチ型の燭台」  
ヴァルター・ヴェルナー工房「巻き上げ式リフトの形のクリスマスピラミッド」 →

エルツ山地では、大勢の従業員が分業体制で量産にあたる工場と、多くの工程を少人数の手作業で仕上げる工房で、木の玩具が生まれている。気の遠くなるような作業に黙々と取り組む姿を目にすると、地下で鉱石を砕き続けた鉱夫の辛抱強さを想う。伝統の技を後世に伝える道が険しいのは、いつの時代も変わらない。

### 講座で紹介したザイフェンの工房と代表者の工人

ヴァルター・ヴェルナー工房 Walter Werner Kunsthandwerk ジークフリート・ヴェルナー Siegfried Werner  
クリスチアン・ヴェルナー工房 Reifendrehwerk Christian Werner クリスチアン・ヴェルナー Christian Werner  
ヴェルナー玩具工房 Werner Spielzeug ヴォルフガング・ヴェルナー Wolfgang Werner  
ヒュヒトナー工房 Werkstätte Volker Füchtner フォルカー・フュヒトナー Volker Füchtner  
クラウス・メルテン工房 Räuchermann Manufaktur Klaus Merten マティアス・メルテン Matthias Merten  
ライクセンリンク工房 Werkstatt Leichsenring ギッタ・クライスル Gitta Kreißl  
クラウス・コルベ工房 Manufaktur Klaus Kolbe GmbH イェニー・マッテス Jenny Matthes



### 「ヨーロッパの木の玩具」展

目黒区美術館 Tel. 03-3714-1201 (目黒駅 徒歩10分)

会期 2017年 7月8日～9月3日

講座で紹介した木工品の多くが展示されます。

クリスチアン・ヴェルナー氏によるライフエンドレーエンの実演もあります。

7月15日、16日、17日

各日 ① 11:00-12:30 ② 13:00-14:15 ③ 14:30-15:45

\*16:00-17:30 は公開制作 各回先着50名